

# 令和元年度 学校自己評価 (3学期)

中津市立沖代学校

## 1 学校の教育目標

楽しい学校 やり抜く子ども  
 ～ 仲間とともにやり抜く子どもの育成 自ら学びあう子どもの育成 ～

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

## 2 重点目標・達成指標、重点的取組等

目指す資質・	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題及び次年度に向けての取組	
多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力	自ら学び合う子どもの育成	○国語・算数の単元テストで平均点が87点を超える ○児童アンケートで「授業がわかる」児童94%以上 ○授業アンケートで「友だちの考えを生かして学習している」児童92%以上 ○全国学力状況調査で合計点が県及び国の平均以上となる(国語、算数) ○各種学力定着状況調査で全学年基礎・活用とも目標値を5ポイント上回る。	学校	・考えを広げ深める他者との協働的な活動の充実	・授業の中に児童が学年段階に応じて、ねらいを持った他者と協働し学び合う場(ペア・グループ活動、発表、学級全体協議)を1日1回は設定する	A	◎成果と課題 ○「授業がわかる」児童95.4% ○「友だちの考えを生かして学習している」児童92.1% ○全国学力状況調査で合計点が県及び国の平均以上(国語・算数) ○中津市学力調査で目標値を5ポイント以上上回れたのは34% 児童アンケート ○府の帰りを書くことができた 91% ○家で自分で計画を立てて勉強 88% 保護者アンケート ○家庭学習の声かけ 86% △子どもの主体的な学習習慣の定着 75% ●子どもが読書している 55% ◎来年度に向けての取組 ・協働的に学び合う場について学校としての系統性をきちんと明示して、それに基づいて実践していく必要がある。 ・自分の考えを書くためのツールについて、計画する場やお互いの実践を交流する場を持つ。 ・総復習の持ち方を、工夫する必要がある。 ・学習のベースとなる読書を定着させる取組 ・家庭学習について、学校として取り組むことを時間だけでなく学び方も明確化。
			学校	・書くことで思考力を育成する授業の実施	・単元ごとに課題に対する自分の自分の考えを書くための手立てとして、図や表やワークシート、思考ツールなどのツールを活用して書く場や学年段階にむ応じた内容で書く視点を示して振り返りを書く場を設定し、1日1回以上設定する。	B	
			家庭	・書くことで思考力を育成する授業の実施	学習の手引きに沿った主体的な家庭学習の習慣の定着(低30分、中45分 高60分)を図る。	B	
			地域	学習サポーターやボランティア活動の充実	どの学年にも読み聞かせや学習サポーターとして学期に1回以上参加する。	A	
	仲間とともにやり抜く児童の育成	○児童アンケートで「学校のきまりを守っている」児童が94%以上 ○児童アンケートで「相手のよいところを見つけて伝えている」児童75%以上 ○「みんなで力を合わせて目標に向かって頑張っている」児童95%以上	学校	学校のきまりを守って生活していく態度とあいさつなど他者を大切にすることを身につけさせる。	学級や学年、全校集会において沖代小学校のきまりや「あすなるそうち」の指導を行う。また、毎月学年で取り組む内容について話し合い、進捗状況を学年で見直したりする。	A	◎成果と課題 児童アンケート ◎「学校のきまりを守ってる」児童94% △「相手のよいところを見つけて伝えている」児童66% ○「みんなで力を合わせて目標に向かって頑張っている」児童95.3% 保護者アンケート △インターネットの声かけ 80% △言葉遣い 67% ◎来年度に向けての取組 ・子どもたちのどんな資質能力を伸ばしていくのかを明確にして、自主的な取組を進めていく中で、年間を通して行事ごとに資質能力ベースで評価し、次につないでいく。 ・子どもたち自身の評価と、教師サイドの評価ができる場をきちんと持っていく。
			学校	目的を共有して協働する行事指導の工夫	各行事の目的を話し合い、振り返りを行い、成果と課題を確かめ合い成就感を味わわせる。	B	
			家庭	多様性を尊重し、お互いの良さを認め合い自己や他者を尊重しようとする態度の育成	・インターネットの使用についてのルールをつくり定期的に児童と改善について話し合う。 ・日常での言葉使いについて家庭で話し合いよりより言葉使いを習慣化させる。	B	
			地域	「あいさつプラスワン」の取り組みを進める(見守り隊の結成)	登下校の際に子どもたちに「おはよう」「おかえり」などの声かけを実施する。	B	
	信頼し合い高め合う	○「沖代小学校は働きやすい職場である」と肯定的に答える教職員の割合が80%以上 ○児童アンケートで「困ったとき、先生がよく話を聞いてくれる。」と思っている児童90%	学校	・チームで育てる学年運営	・毎週の学年部会で、学年の行事や授業について共通理解し、トラブルへの対応についても学年部の枠を超えて共同歩調で対応する。	A	◎成果と課題 教職員アンケート ○「沖代小は働きやすい職場である」教職員90% 児童アンケート ○「困った時、先生がよく話を聞いてくれる」と思っている児童97% ◎来年度に向けての取組 ・尚一層のチームで働く学年部の推進 ・会議の見直し ・教材研究や単元計画の時間保障 ・遅くとも19時退庁を目指す ・ノー残業デーは18時には退庁できるように
				・児童や教職員の情報共有及び発信	・児童の情報共有を情報交換会(隔週)や会議の中でを行い、共同歩調の対応ができるようにする。	A	
				・働き方改革	・隔週の金曜日をノー残業デーとし、互いの声かけとともに、目印等、視覚的にもアピールして定時退庁日にする。 ・月1回、中津市が定める水曜日は定時退庁する。	B	
			家庭	・働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	学力向上会議、学校便り等で学校の働き方改革について理解し、GTやサポーターとして学校支援を行う。	B	
地域					B		